

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100951		
法人名	医療法人 かわせみ		
事業所名	グループホームハタ		
所在地	徳島県徳島市八多町小倉76番地		
自己評価作成日	平成26年6月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、周囲に桜やみかんの木がたくさんある自然豊かな環境に位置している。天気の良い日には、遊歩道の散歩や野山の散歩を楽しんでいる。母体法人が医療機関であるため、医療との連携を円滑に行っている。また、利用者や家族の希望に応じ終末期の支援に取り組んでいる。法人全体で、積極的に勉強会を開催したり、資格の取得に向けた取り組みを行い、サービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな山あいに位置している。利用者は、遊歩道の散歩や野山の散歩で季節を感じたり、近隣の保育所との交流等を楽しみながら共同生活を送っている。管理者が中心となって、全職員で“利用者が家庭的な雰囲気なかで安心して暮らしていけること、地域から信頼される事業所になること”の理念の実践に取り組んでいる。また、介護サービスや技術の向上に向けて、積極的に取り組んでいる。同一法人の運営する併設の医療機関と密に連携を図っており、利用者や家族の安心に繋がっている。代表者は、サービスの質の向上と、職員の資質向上に向けてリーダーシップを発揮しており、研修会や勉強会の開催、事業所の運営面の見直し等に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念の作成、見直しを行い、理念を共有して実践できるよう努めている。	年度当初には、全職員で理念について話しあって見直すようにしている。事業所内に理念を掲示している。毎日のミーティング時には、理念の意義を確認しあって実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設する、母体医療機関の行事や地域の祭り、敬老会に参加している。ホーム便りを併設病院の各部署や、JA・保育所・郵便局等に配布している。	散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、地域の敬老会や祭り等の行事に積極的に参加したりしている。また、事業所だよりを配布して活動内容等を周知している。地域の保育所とも交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、事業所に立ち寄ってもらえるよう声掛けをしている。見学にきて頂いた方に、介護サービス利用等について説明を行ったり、血圧測定を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において取り組みの状況を報告し、参加者から意見をきいている。出来るだけ多くの職員が、会議に参加し、改善課題についての意見交換を行いサービスの質の向上に生かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の現況や報告、課題等について話し合っている。事業所と地域の相互理解や課題改善等に繋げるべく、多数の職員が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所便りや推進会議の議事録を市の担当者及び包括支援センターに届け、利用者の暮らしぶりを伝えている。	職員は、市担当窓口を訪問し、現況報告や事業所だよりを持参している。市担当者とは、日頃から事業所の現状や課題について話し合っており、困難事例の発生時等にも気軽に相談することのできる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する研修会に参加したり、事業所内に於いても、勉強会や、ミーティング等において確認しあっている。	全職員で、身体拘束に関する研修やミーティングを重ね、その弊害や内容について正しく理解するようにしている。医療機関の協力を得たうえで、利用者の気持ちに寄り添いつつ見守りを重視した支援を行うことで、抑圧感のない暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修会に参加したり、事業所内に於いても、勉強会や、ミーティング等において確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催の権利擁護に関する研修に参加し、事業所内に於いて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改定や、利用中の料金改定等、利用料が増加する場合等、一方的な通達にならないよう、個別の相談に応じながら詳しく説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に出される家族からの意見や要望の把握に努めている。また、利用者から出される要望等は、毎朝のミーティング等において、個別に検討している。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。家族からは、電話や来訪時、運営推進会議等の機会に聞くようにしている。出された意見や要望は、毎日のミーティング時に話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングにおいて意見を聞くようにしている。また、毎月理事長出席のもと行われる法人の管理会議では、管理者と職員が話し合った意見や提案を報告し、運営に反映させている。	管理者は、毎日のミーティングや日頃の関わりのなかで職員の意見や提案を聞くようにしている。出された意見等は、毎月、法人で開催する管理者会議の際に報告し、協議を行ったうえで運営面に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき、労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修等、事業所外で開催される研修会に、なるべく多くの職員が参加できるよう努めている。また、事業所内においてもスキルアップのための勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国組織のグループホーム協会に加入し、必要な研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で、話しやすい雰囲気づくりを心掛けながら、本人の状態や思いと向き合っている。(笑顔・コミュニケーション等により、本人の不安を取り除く努力をしている。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、次の段階の相談につなげている。(特に金銭に関すること等は、些細なことにも耳を傾けるようにしている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返しながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の年齢を積み重ねた言動に、教えられることが多く、家庭的な雰囲気の中で和やかに生活していただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りに日々の暮らしの出来事や、気づきを記載している。また、本人、家族の意向を反映したプランを作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの所に出かけている(美容院・お好み焼き)。また、馴染みのタクシー運転手さんと買い物に出かけたりしている。	家族の協力を得たうえで、利用者一人ひとりの馴染みの場所や買い物へ出かけるようにしている。利用者全員が、家族や親しい方に電話をかけたり、年賀状を出したりすることができるよう、事業所として継続的な支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、個別に話を聞きながら個々の状態を把握し、利用者同士の関係がうまくいくよう調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した利用者とは行事に参加したり敬老会と一緒にいたりしながら継続的に付き合いが出来るよう心掛けている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人一人の思いを大切にしながらサービスに反映させている。ケアカンファレンスやミーティング等において希望等の検討を行っている。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。ミーティングやカンファレンス等の機会に、利用者一人ひとりの「今月のケア目標」を立て、具体的な支援を行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から情報を得るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握し、職員全員で、情報の交換を行っている。また、出来ないことより、出来ることに注目し全体像が把握できるよう努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。また、職員全員で毎月ケアカンファレンスを行い、状態の変化を確認し、一人一人の目標を作成している。	本人の希望や身体状況、家族の意見等をもとに関係者間で話し合っ、利用者のより良い暮らしの実現に向けた介護計画を作成している。アセスメントやモニタリングを繰り返し行い、一人ひとりの状況変化に応じた介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分摂取量や排泄状況、身体状況、日々の暮らしの様子、本人の言葉などを、利用者一人一人のケア記録に記載し、全職員で確認している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援を柔軟に支援し、利用者一人一人が満足できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターが参加することにより、情報交換協力関係を築いている。訪問理、美容サービスを利用し、毎月の外食を楽しみにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に添った掛かりつけ医を受診できるよう支援している。	多くの利用者が、同一法人の運営する医療機関を主治医としている。専門科の受診時には、家族や職員が同行するなどして、適切な受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。毎朝のバイタル測定や、巡回時で変化がみられた場合、マニュアルに従い担当看護師に報告し、適切な医療につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、家族と情報交換しながら速やかに退院支援に結び付けている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について家族や主治医と話し合い、支援方法の確認を行っている。	入居時の段階で、事業所のできることを本人や家族に説明し、意向確認書を得るようにしている。本人の状態変化に応じ、関係者間で情報を共有しつつチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や話し合いを繰り返し行っている。マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、併設の医療機関とともに避難訓練や消火器の使用方法等の訓練を行っている。事業所独自の通報訓練、利用者の避難訓練を行っている。地域の連絡網を作成し、協力体制を築いている。	年4回、通報・避難訓練を実施している。また、訓練時には、消防署の指導を受けている。併設の医療機関と合同で消火・避難訓練を実施している。運営推進会議の活用により、地域との連携・協力体制の強化に取り組んでいる。災害時に備え、備蓄品を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時の、ノック、声掛けを徹底している。特に失禁時など、誇りやプライバシーを損ねる対応をしないよう言動に配慮し支援している。	利用者一人ひとりの人格の尊重を重視している。利用者全員を“姓”で呼びかけるよう徹底している。トイレへの誘導や介助時には、プライバシーを損なうことがないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたことを押し付けるのではなく、利用者の状態に合わせて本人が自己決定できるよう支援している。また、全ての利用者の意向に合わせるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、行事予定等にこだわらず、希望に添った対応を心掛けている。(入浴等)			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせて支援している。毎朝、全員に蒸しタオルを配り顔を拭いてもらったり、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯やおかずの盛り付けの際は、利用者により量を決めてもらったりしている。利用者と職員は同じ食卓で和やかに食事をしている。利用者一人一人に出来ることをしてもらっている。	食事は、同一法人の運営する併設の医療機関から運び込んでいるが、炊飯は事業所で行っている。利用者は、盛り付けや配膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。利用者と職員は、ともに同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。月1回は、外食を楽しむことができるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を把握し記録している。お茶の時間を設けるなど、利用者の好みに合わせて水分摂取できるようにしている。食事は母体医療機関の管理栄養士が作る献立にもとづいて調理した食事を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後、洗面所に行ってもらっている。自分で出来る方は声掛けや見守りを行い、困難な方は歯磨き、義歯洗浄の介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけない配慮を心掛けている。トイレでの排泄を大切にしながら、本人の状態に合わせて、ポータブルトイレ・紙パンツ等を使用している。失敗した場合も、周囲に気づかれないよう配慮をしながら自室で対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めに誘導をするなどしてトイレでの排泄を支援している。夜間の移動が困難な方には、ポータブルトイレを活用するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に付いてくる牛乳を飲んでもらうよう声掛けをしている。午前・午後の体操への参加、水分補給の徹底、野菜嫌いの方に食事についてくる野菜摂取を勧める等、個別の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて、入浴時間や順番を決めている。また仲の良い利用者同士の入浴希望や入浴剤を入れて入浴を楽しむ等の支援を行っている。	利用者の希望に応じた入浴体制をとっている。入浴を拒む方には、声かけやタイミングを工夫するなどして、少なくとも週4日は入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の電気の明るさを、本人の希望に合わせて、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を記録し、全員が把握できるようにしている。また、誤薬を防ぐため、朝・昼・夕・就寝前薬の薬袋に色塗りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日のプレゼントを渡したり、司会をお願いしながら力を発揮してもらっている。外出・外食・地域の行事への参加などの楽しみごとは、利用者と一緒に相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	建物周辺や近隣・遊歩道の散歩など、毎日外出できる機会を作っている。また、毎月の買い物・外食などの外出支援も行っている	天候の良い日には、利用者の希望に応じて近隣や遊歩道へ散歩に出かけている。また、毎月、買い物や外食へ出かけており、利用者の楽しみの一つとなっている。姉妹で美容室や外食に出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かり事業所が管理している方でも、外食や買い物の際など、自分で支払できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状をだすための支援を欠かさず行っている。利用者の希望に応じて日常的に電話を掛けたり手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や共有スペースにソファや長椅子を置き、一人でゆっくり寛いだり、気の合う利用者同士で話ができるようにしている。	共用空間にソファや長椅子を設置し、利用者がくつろぐことができるようにしている。食堂の壁面には、利用者の作品や写真、思い出話などを掲示している。また、空き室にカーオケルームを設けるなどしており、利用者同士の憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人の気配が感じられる空間の中で、一人用の椅子やソファを準備し、寛げるよう支援、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や家具、写真、手作りカレンダーなどを持ち込み居心地のよい居室作りを工夫している。	事業所では、利用者にテレビや使い慣れた家具、思い出の品等を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう、環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、状況に合わせた環境整備に努めている。毎月のケアカンファレンス等において利用者の状態確認を行い、変化が生じている場合は、本人の不安を取り除くよう努めている。(ポータブル・歩行器・消臭剤使用等)		